

令和2(2020)年度 大学生の力を活用した集落復興支援事業 実証実験報告書

# 葛尾村 業務報告書

～葛尾村を知る・広げる～



広島大学ボランティア団体アイリス

[iris.hiroshima.0707@gmail.com](mailto:iris.hiroshima.0707@gmail.com)

## 目次

## 第一章 概要

- 第一節 団体概要……………2
- 第二節 村の概要……………2
- 第三節 2019年度の振り返り、2019年度の成果……………3

## 第二章 実証実験の実施

## 第一節 2020年度の活動内容

- 第一項 年間計画……………4
- 第二項 2020年度の目標……………5
- 第三項 方法……………5

## 第二節 2020年度の実施内容

- 第一項 写真展(方法①)に向けた活動:写真撮影会(1月26日開催)……………6
- 第二項 1年を通しての交流(方法②)に向けた活動:広島の特産品を嗜む交流会(2021年1月26日開催)……………7

## 第三章 実証実験の結果

## 第一節 2020年度の結果

- 第一項 写真展(方法①)に向けた活動:写真撮影会(1月26日開催)……………8
- 第二項 1年を通しての交流(方法②)に向けた活動:広島の特産品を嗜む交流会(2021年1月26日開催)……………9

## 第四章 今後の事業計画

- 第一節 写真展開催……………10
- 第二節 一年を通じた関係作り活動……………12
- 第三節 クラウドファンディング……………12

- 謝辞……………13

# 第一章

## 第一節 団体概要

私たち広島大学ボランティア団体アイリスは、2018年7月の西日本豪雨災害を機に発足した災害支援を行う団体です。大きな自然災害を身近に経験し、何かできないことがないかと思い、発災直後は土砂だし、ボランティアセンターの立ち上げ、避難所での交流等を行ってきました。

土砂や家具の運び出しなどのハード面での支援が落ち着いてきたところからは、活動の中でできた地域の方や行政・他のボランティア団体とのつながりを大切に、復興イベントの運営補助を中心とした心の支援を行ってきました。

現在のメンバーは、4年生3名、1年生4名の計7名です。本事業の他、引き続き西日本豪雨災害の被災地訪問などを行っています。

## 第二節 村の概要

葛尾村は、2011年3月に発生した東日本大震災およびそれに伴う原発事故により、全村避難を余儀なくされました。その後2016年6月に、一部地域を除く避難指示が解除されて、少しずつ住民の帰村が進んできました。もともと過疎・中山間地域の集落であるところに全村避難になったことで、世帯主夫婦等は帰村しているものの、若者世代の多くが村外に住宅を求めて帰村が進まず、震災前と比べて一気に高齢化率が上がりました(村内居住者の高齢化率:46.4% ※2021年2月1日現在)。

また、優良農地が放射性廃棄物の仮置き場になっていることから、営農再開が遅れている側面があり、かつ今後の担い手確保に不安を抱えています。その中であって、帰村した住民は精力的に活動し、支え合う中で、集落内の団結力は強固です。

また私たちが活動させて頂いている下葛尾行政区は、特に帰村している世帯割合が最も高く、住民同士での助け合い、交流が活発な地域です。

### 第三節 2019年度の振り返り、2019年度の成果

活動内容: 葛尾村に住む方々や、働いている方々に対する聞き取り調査



活動の様子(2019年12月撮影)

目的: ①初めて葛尾村を訪れる人がどう感じるか、自分たちの変化を記録する。  
②今の葛尾村をしっかりと見取り、記録する。

調査期間: 2019年12月17日～12月22日

アイリスメンバー参加人数: 6名

活動スケジュール:

- 12月17日 葛尾村内施設(復興交流館あぜりあ、大尽屋敷跡等)訪問、村の方々との顔合わせ交流会
- 18日 葛尾村内施設(むらづくり公社、葛力創造舎等)訪問、村の方々の家庭で聞き取り調査
- 19日 教育長・学校訪問、村の方々との交流会(婦人会の方々にけんちんうどんを振舞っていただいた)
- 20日 葛尾村内施設(商工会議所、村役場等)訪問、村の方々の家庭で聞き取り調査
- 21日 リプトンふくしま・東京電力廃炉資料館見学、語り部の方にお話を伺った(いわき市)
- 22日 村の方々の家庭で聞き取り調査、村の方々との交流会

調査人数: 下葛尾行政区居住者 9名、その他葛尾村で働く方々 11名 計20名

活動結果: 葛尾村には魅力、そして課題とそれに対する解決のアイデアがある。

魅力…村の方々の優しさ、団結力の強さ、チャレンジングな精神。広大な自然、郷土料理など  
課題…後継者不足、補助金の使い方、施設や交通手段の不足など  
解決のアイデア…風評被害を受けにくい胡蝶蘭の栽培の開始、共営農業を行うなど

## 第二章 実証実験の実施

### 第一節 2020年度の活動内容

#### 第一項 年間計画

10月	計5回	アイリスミーティング(6、20、23、27、28日)
11月	計4回	アイリスミーティング(3、10、12、19日)
12月	計7回	アイリスミーティング(1、8、10、12、15、22、27日)
	17日	葛尾村役場の方への説明会・ミーティング
	18日	カメラマンの方との打ち合わせ
	24日	写真撮影会打ち合わせ①
1月	計6回	アイリスミーティング(5、12、13、16、19、23日)
	9日	下葛尾集落の新年会に参加させて頂き、改めてご挨拶
	15日	葛尾村役場×アイリス 最終打ち合わせ
	20日	葛尾村の方々へインタビュー①
	21日	葛尾村の方々へインタビュー②
	26日	写真撮影会・広島の特産品を嗜む交流会
2月	計8回	アイリスミーティング(5、8、12、13、16、23、26、28日)
	19日	村長、副村長にインタビュー
	20日	オンライントークイベント『葛尾村の復興を考える』(主催:アイリス)
3月	計3回	アイリスミーティング(4、11、18日)
	5日	TSS新広島テレビ取材、中国新聞社取材
	6~13日	写真展開催 (social book cafe ハチドリ舎:広島県広島市)
	11日	オンラインイベント『3.11あれから10年、私たちができること(主催:オンライン市役所)』登壇
	12日	オンライントークイベント『復興ってなんだろう?』、RCC取材
	15~18日	写真展開催 (中国新聞本社ビル:広島県広島市)
	16日	クラウドファンディング申請
	28日~4月27日	クラウドファンディング
4月	7~21日	写真展開催 (ほたる荘:広島県東広島市)

## 第二項 2020年度の目標

2020年度の目標を設定するにあたってまず、私たちがこの事業に参加するきっかけのひとつもなった「長期的な”復興”とは何か」ということについて考えました。この問いに対して私たちもまだ答えを見つけられておらず、手探り状態ではありますが、現時点で一つの長期的な復興の形を位置づけました。

その形とは「**葛尾村の応援者が増え、村や村の人々により一層の活力が生まれる状態**」です。昨年度の調査で葛尾村の方々の多くが挙げていた「とにかく人がいない」という課題から考えました。この葛尾村の応援者とは、関係人口をイメージしていて、実際に村に遊びに行く人や、村のものを食べる人などを想定しています。

この状態を遂げるために3つのステップを考えました。

ステップ1: 私たち自身が葛尾村に関わり、知ること。

ステップ2: 私たちが葛尾村で知ったことを他者に伝えること。

ステップ3: それを知った人がアクションを起こすこと。

この3ステップが私達の考える長期的な復興の土台にあると考えます。

そこで、今年度の目標を「**多くの人が葛尾村を知り、その人たちがアクションを起こすための具体的な仕組みを企画・実施する**」こととしました。理由は、私たちの考える長期的な復興の段階において、昨年度は葛尾村を訪れて、葛尾村に触れることができた(ステップ1)ので、今年度はステップ2に移行していきたいと考えたからです。

## 第三項 方法

次の活動を軸に進めていきます。

### 方法① 村外地域と住民をつなぐ写真展の活動

多くの人が葛尾村を知り、その人たちがアクションを起こすための具体的な企画として、**村外の地域に葛尾村の「今」を伝える写真展を開催**しようと考えました。昨年度と今年度の活動で撮影した写真を展示する写真展を、オフラインとオンライン上の両方で開催します。この活動を通して、「村外の多くの人に葛尾村のことを知ってもらうことで、葛尾村の応援者が増え、より一層活力が生まれる状態」を目指します。

### 方法② 1年を通しての交流活動

昨年度の調査から、葛尾村にはたくさんの魅力がある一方、課題もあるということが分かりました。共に課題解決に向かって活動する上で、やはり関係づくりは大切であると思います。特に今年は、昨年度葛尾村を訪れていない一年生のメンバーも多いので、これから継続的に住民さんと関わっていくことが必要不可欠であると認識しています。そこから、**葛尾村の方々と、アイリスを含む村外との間に関係を築き、地域資源やアイデアを共有し、かたちにしていくための交流を継続的に行っていくこと**としました。この活動を通して、「お互いのことをより深く知って、一緒に活動して楽しいな、おもしろいな、やりがいがあるなと思える関係を作ること」を目指します。

## 第二節 2020年度の実施内容

### 第一項 写真展(方法①)に向けた活動:写真撮影会(1月26日開催)

目的:葛尾村の「今」を切り取る写真を撮影すること。

実施内容:オンラインでの写真撮影

新型コロナウイルスの影響でアイリスメンバーが直接葛尾村に行く事ができないため、オンライン撮影という形で行いました。

※オンライン撮影…ビデオ通話を通じ、スマートフォンなどを使って写真を撮影すること。

アイリスと以前から交流のあった、ソー写ルグッド株式会社代表の写真家・汰木志保(ゆるきしほ)さんや、役場の方にもサポートいただきながら行いました。



撮影テストの様子

オンライン撮影会を行うにあたり、汰木さんや葛尾村役場の方とミーティングを4回行いました。ミーティングでは、撮影の手順やオンラインでのコミュニケーションのとり方などの話し合いを行いました。

撮影方法:Face Timeで葛尾村と汰木さんをつなぎ、スクリーンショットを利用して撮影。

オンラインでカメラの高さを目線と同じくらいに調節したり、壁に対して垂直・平行・水平にiPadを置く、晴れていたなら障子の開け閉めで光加減を対応する、などの確認を事前の撮影・通信テストの際におこないました。

交流会でお集まりいただいた皆さんに葛尾村のキャラクター「しみちゃん」のぬいぐるみを持っていただいたり、「葛尾村の好きなところ」を書いてもらった紙をもっていただき、撮影しました。

撮影会で撮った写真は主に写真展で使用させていただきます。

## 第二項 1年を通しての交流(方法②)に向けた活動:広島の特産品を嗜む交流会(2021年1月26日開催)

目的:1年生もいるので、全く知らない状態(ゼロベース)からこの交流会を通して、顔見知りの大学生ではなく、もっと身近な存在として感じてもらうこと。

※この先に、より深い関係(これから一緒に課題に取り組んでいくことができる関係)を構築していけると考えています。



当日の様子

アイデアを共有したり、新たな課題を発見したりするためには、プライベートな部分までお話でき、本音を言い合えるような、相互の信頼関係を築くことも大切です。しかし、昨年度の調査では葛尾村や葛尾村の方々のことを教えていただいたものの、葛尾村の方々にアイリスメンバーのことをお伝えすることはあまりできませんでした。そこで今年度は、私たちについて知ってもらうことを目的としました。

実施内容:広島大学のある東広島市西条の特産品を嗜みながら、お互いに関するクイズ大会や質問タイムコーナーを実施。

タイムスケジュール:

- 1 挨拶、広島の特産品の紹介
- 2 アイリスの団体紹介
- 3 アイリスメンバーの自己紹介
- 4 葛尾村のことを知る! 3つの質問
- 5 アイリスメンバーにまつわるクイズ
- 6 今後に向けて(アイリスよりビデオメッセージ)

1月26日当日の様子。葛尾村、広島、東京をオンラインで繋ぎました。

用意した特産品について:日本酒、もみじまんじゅう、牡蠣せんべい、お好み焼きせんべい

西条は酒処として有名なので、西条の日本酒を送りました。特産品(日本酒以外)は私たちの分も用意し、会の中で住民さんと一緒にいただきました。

※感染症対策のため日本酒の飲酒は禁止にし、参加者の皆さんのお持ち帰り頂きました。

葛尾村のことを知る！3つの質問:①葛尾村の好きなおところ ②葛尾村自慢！③葛尾村の思い出のある場所

昨年度の調査では知りえなかったこともあったこと、そして昨年度実態調査を行っていない一年生が葛尾村がどんな村なのかを肌で感じるができるのではないかと考えたことから、私たちが葛尾村や村の方々についてもっと知ることができるようにこの企画を行いました。質問が書かれたシートに答えを記入してもらい、数人に発表していただきました。

アイリスメンバーにまつわるクイズ:毎日欠かさずしていること、最近ハマっていること、地元のエピソードなどをテーマに三択のクイズを作り、スライドを作成して実施。

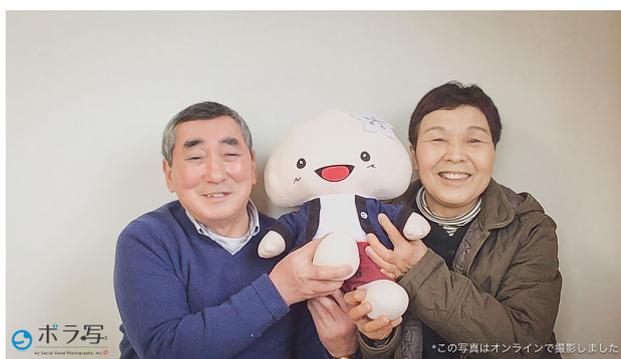
クイズの正解発表の後に、村の方々にもお話を聞かせてもらいました。毎日欠かさずしていること、学生時代の思い出、部活動、最近ハマっていること、地元のエピソード、今年の目標などの身近な話題について共有しました。

## 第三章 実証実験の結果

### 第一節 2020年度の結果

#### 第一項 写真展(方法①)に向けた活動:写真撮影会(1月26日開催)

合計14名の村の方々の写真を撮影しました。





撮影した写真の一部

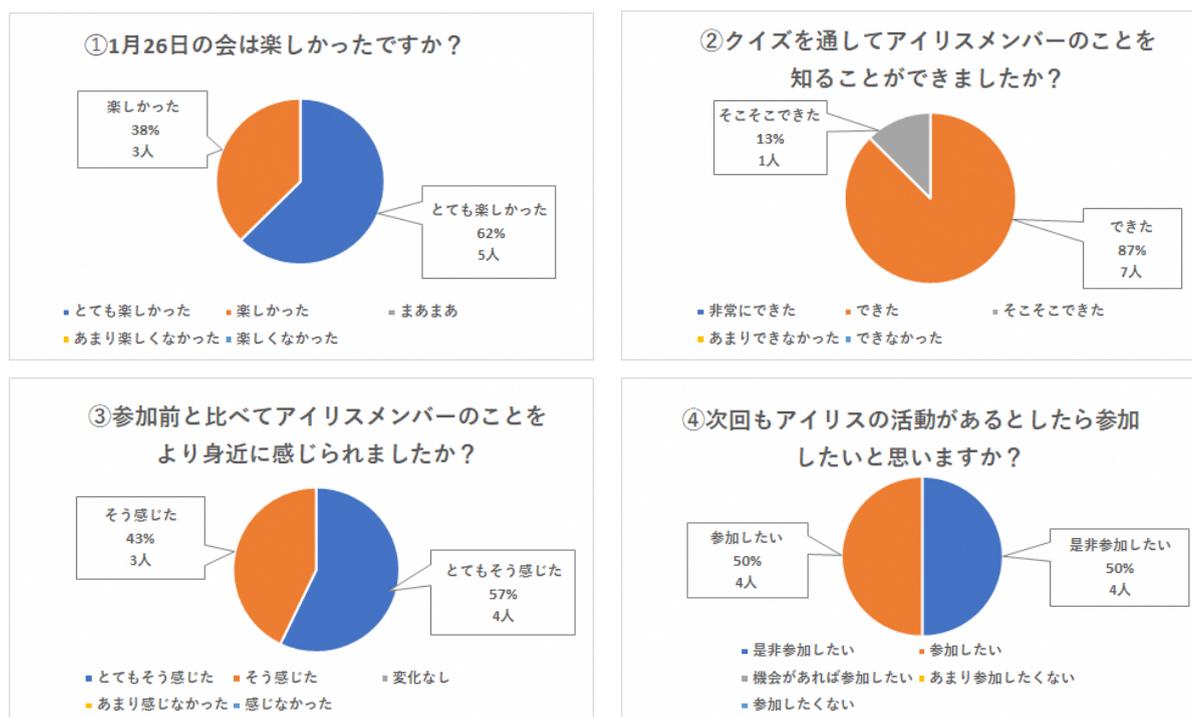
こちらの活動は、写真展の開催など引き続き継続しているため、結果は今後ご報告いたします。

## 第二項 1年を通しての交流(方法②)に向けた活動:広島の特産品を嗜む交流会(2021年1月26日開催)

今回の交流会に参加してくださった方々に対して、交流会についてのアンケートを実施しました。質問項目は、今年度の交流会の目標から考え、

- ①1/26の会は楽しかったですか？
- ②クイズを通してアイリスメンバーのことを知ることができましたか？
- ③参加前と比べてアイリスメンバーのことをより身近な存在だと感じましたか？
- ④次回もアイリスの活動があるとしたら参加したいと思いますか？

の4つで、最後にアイリスへのメッセージや今後してみたいことを記入していただきました。アンケートの集計結果は以下の通りです。



回答者数:8名 調査主体:広島大学ボランティア団体アイリス

アンケートにより、村の方々に会を楽しんでもらうことができたという結果や、今後の活動について参加の意向を得ることができました。そのため今回の交流会は、葛尾村とアイリスの、「これからも一緒に活動していくことができるような関係」構築のきっかけとなったと評価しました。

他方、「アイリスメンバーのを知ることができたか」という問いについては、その他の質問項目に比べて、「もっと身近な存在として感じてもらう」という目標の達成にあたって不十分であると感じました。今後の関係作り活動の過程で、私たちについてももっと知ってもらいながら交流を深めていきたいと思えます。

## 第四章 今後の事業計画

### 第一節 写真展開催

テーマ:復興ってなんだろう? ~福島県葛尾村の「今」を見つめ「未来」を考える~

実施会場・日程:ハチドリ舎(広島県広島市/3月6日~3月13日)

中国新聞社(広島県広島市/3月15日~18日、4月1日~7日)

ほたる荘(広島県東広島市/4月7日~21日)

特設ウェブサイト(4月以降開設)

※4月以降、福島県の皆様のご協力のもと福島市内でも開催予定です。

※一部、開催を終えたものがありますので、結果を以下にご報告いたします。

写真展会場に、葛尾村へのメッセージや写真展の感想などを記入するメッセージカードを準備し、来場された方に書いてもらいました。以下はその例です。

村の存在をはじめて知りました。事故から10年の歳月がすぎているのですが、今なお、帰還困難区域が村にあること、そして地域に戻る決断をされた方々もおり、より重い課題を抱えながらも、笑顔で日常を送られている様子が伝わり、平穏な私の日常との連続性を少しだけ意識することができました。

きっと、想像も及ばないくらい、様々な想いがあるのだと思います。たくさんの悲しみ、つらい経験もあったかもしれません。でも、それを全部抱えてこんな笑顔を見せるみなさんに、ぜひお会いしてみたいです。

アイリスのみなさんの活動を知る中で、「葛尾村」の存在を知りました。またテレビで日本一人口が少ない村というタイトルでこの村の名前を聞いたことがあります。だけど今日ここお写真をみただけで、なんてステキな方たちが住む村なんだろうと思いました。この村の方々が、同じ村の人々のことが大好きで自然が大好きで…ということがすごく伝わってきました。今日ここで「葛尾村」について知ることができて本当によかったです。

涙が出ました。なんでか分からないけど、みなさんの笑顔を見たら涙が出てきました。娘についてきて、偶然出会えた皆さんの笑顔、復興という意味、ずっと考え続けていきます。

※既に実施した写真展についてメディア取材を受けました。

- 3月6日 中国新聞
- 3月11日 TSS新広島テレビ
- 3月11日・16日 RCCテレビ



写真展の様子

## 第二節 一年を通じた交流活動

4月以降も引き続き、葛尾村の方々との関係作りのために交流会や意見交換会を行っていきます。日時等未定ですが、村の方々のご無理のない範囲で、月に1回もしくは2か月に1回程度のペースで行っていきます。

## 第三節 クラウドファンディング

目的:クラウドファンディングの宣伝力を使って、葛尾村のことを発信し、村の応援者を増やす。

本事業の期間中だけでなく、継続して活動を行うための資金を集める。

実施期間:3月28日～4月27日

※クラウドファンディングのページはこちらのQRコードからご覧いただけます。



※クラウドファンディング宣伝のため(=葛尾村の応援者を増やすため)のオンラインイベントを開催しました。

第一回オンラインイベント(2021年2月20日開催)

～クラウドファンディングまであと数日！～「復興とは何か」を考えるオンライントークイベント



イベントの様子

第二回オンラインイベント(2021年3月12日開催)

復興って何だろう?～福島県・葛尾村に関わる大学生と復興を考えてみる～

共催:social book cafe ハチドリ舎



イベントの様子。延べ28名の方にご参加いただきました。

## 謝辞

今年度の活動においても、多くの方々にご協力頂きました。私たちを孫のようにかわいがってくださった葛尾村の皆様、葛尾村についてたくさん教えてくださった村長さん、副村長さん、私たちの活動に惜しみなくいつも協力してくださった葛尾村役場の石山さんを始めとする役場の皆様、その他今回の活動に携わって下さったすべての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震で被災された皆様、ご家族の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。福島ならびに東北・日本の1日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

2021年3月 広島大学ボランティア団体アイリス 一同